

## 富士登山競争駅伝小史

### 初めての富士登山競争

歩いてでも富士山の頂上を極めるのは苦しい。それを駆けあがるという、夢にも思わないことが企画されつつあった。大正2年7月のことである。時事新報社が主催し、出発点は御殿場口太郎坊、決勝点は富士山頂と決められた。この御殿場口は砂走りで登りにくい上、温度差は20度以上、八合目からは傾斜35度以上の急勾配であり、希薄な酸素にも悩まされという、実に過酷な状況下でのレースである。

この大会には全国から1,142人の応募があり、その中から14名の選手が選抜された。この時のスターターは金栗四三、優勝したのは伊達勤太郎で、頂上まで2時間38分で駆け上がった。彼は人力車夫をしながら商業高校に通う苦学生であった。

### 第2回富士登山競争

大正6年に第2回大会が同じコースで開催された。このときは第2組の秋葉祐之が前回の記録を7分短縮する2時間31分で優勝した。

富士登山測候所を開設した中野至が当時の新聞に「冬に雪が多い時は夏の富士は雨が少ない。好天に恵まれたから良い記録が出たのだろう」と語っている。

### 頂上往復マラソンの先駆け

第1回箱根駅伝が行われた2年後の対象11年、東京学生マラソン連盟の主催で、初めて頂上往復マラソンが行われた。この日は快晴に恵まれ、13名の選手が朝7時に太郎坊を出発、頂上を折り返して御殿場駅にゴールした。沿道には地元の青年団、児童・生徒をはじめ大勢の人達が列をなして応援したという。ところが、下山の途中で明治大学の選手が、炎暑と疲労から倒れ意識不明となる事故が起こった。このコースの距離は35kmにも及ぶことから、選手は1週間前から登山練習を行って大会に備えてはいたが、往復独走のレースはやはり大冒険であった。そこで、翌12年から1チーム5人の駅伝方式に切り替え、以降はこの方式が継承されている。

### 地元選手の初参加

大正13年の大会から初めて、地元の青年団と御殿場実業学校の参加が認められた。この日のために満を持していた協力の梶房吉の組が優勝し、御殿場実業が2位という成績であった。

翌年は学生連盟が優勝したが、大正15年には地元御殿場青年団が初めて優勝した。これを契機に2年後、御殿場でもマラソン連盟が結成されたのである。

### 富士登山競走の華ざかり

昭和6年は登山駅伝が始まって第10回ということで大変な賑わいをみせた。全国学生マラソン連盟が主催し、報知新聞と富士登山営業組合が特別協賛となった。このとき学生連盟が出した4時間33分30秒は戦前に行われた駅伝での最高記録である。

昭和9年から11年には地元玉穂青年団が3連覇するなど隆盛を誇った大会も昭和13年の武運長久祈願富士登山マラソン競走を最後に終幕となった。

### 戦後の幕開け

終戦から数年を経て、食べるに精一杯だった人達の中からも、朝夕に仰ぎ見る富士山に、かつての登山駅伝を夢見るゆとりが生まれていた。

昭和26年8月12日、全国マラソン連盟が主催し、読売新聞社等が後援して、戦後の第1回富士登山競走大会が開催された。御殿場駅前での開会式では、金栗四三富判長が「世界に誇る富士の峰にオリンピックの夢をのせ、敢闘を祈る」との挨拶があった。

29年には全国マラソン連盟によるオリンピック合宿が併せて行われる等、隆盛に向かうかと思われたこの大会も、大会運営の困難さゆえに昭和30年を最後に立ち消えとなってしまった。

## 復活富士登山駅伝競走大会

昭和 49 年の夏、静岡新聞社の「情報往来」に復活の未来展望が取り上げられ、人々の注目をひいた。更に翌 50 年には御殿場陸協の手で綿密な事前調査が行われ、ついに 51 年 4 月の御殿場陸協総会の席上、大会の復活が決議された。その年 8 月 15 日、国立中央青年の家をスタート・ゴールとし。山頂を折り返す復活第 1 回大会が聞かれた。役員の大半は初めての経験であり、緊張に顔をこわばらせていたが、最後のチームまで事故もなくゴールするとみるみる緊張がほぐれ、肩をたたきあって成功を喜ぶさまが印象的であった。

~~~~~

### 富士登山マラソン復活第 1 回大会（昭和 51 年度）

選抜された 45 チームのうち、7 チームが健康診断で参加を許されず棄権となるなど、特殊環境に対する不安と緊張のなかでの大会であった。この大会には日本体育大学が、必勝を期して乗りこんできたが、下りで濃霧のためコースを誤り、わずか 5 秒差で八王子富士森走友会に逆転を許し、破れる波乱があった。

### 富士登山マラソン復活第 2 回大会（昭和 52 年度）

麓は大雨ながら、山頂は晴れという富士山特有の気候のなか、八王子富士森走友会が記録を 13 分半も短縮し 2 連覇。この大会から冠された金栗四三杯を金栗先生自らの手で授与された。

### 復活第 3 回富士登山駅伝競走大会（昭和 53 年度）

名称の変更と併せ、地元の強い希望からスタートが御殿場駅となった。麓から山頂まで雲ひとつ無い快晴のもと、全日本級の選手で固めた日本体育大学が圧勝。

### 復活第 4 回富士登山駅伝競走大会（昭和 54 年度）

今年から TV 放送も全国規模となり、大会参加の裾野も広がりだした。開会式には OB の河野謙三日体協会長も出席、選手を激励した。大会は八王子富士森走友会が去年の雪辱を果たし、3 度目の優勝を飾った。

### 復活第 5 回富士登山駅伝競走大会（昭和 55 年度）

雨、霧、晴れ間、曇り、雨と富士山特有の気象条件のなか、過去最高の 45 チームが完走、この日は登山客 6 万人、走り抜けるランナーに盛んな声援がとんだが、登山道の安全確保が新たな課題となった。大会は八王子富士森走友会が 2 連覇、通算 4 勝を挙げた。

### 復活第 6 回富士登山駅伝競走大会（昭和 56 年度）

大会が定着するに従い、地元からの期待も高まり、その強い要望によりゴールが市民会館まで延長された。そのため、沿道の観衆は飛躍的に増加し、交通安全対策が新たな課題となった。大会は東レ三島が初優勝し万年 2 位の名を返上した。

### 復活第 7 回富士登山駅伝競走大会（昭和 57 年度）

この年から参加チームに出場制限を加えるなど、安全対策を強化。万全の体制を敷いたが、思わぬ台風の接近により 7 合 5 勺で折り返しとなった。しのつく雨の中激しいデットヒートの末、日本体育大学が養命酒を振りきり 2 度目の優勝を果たした。

### 復活第 8 回富士登山駅伝競走大会（昭和 58 年度）

今夏最高の猛暑のなかを、過去最高の 56 チームが完走した。大会は、過去 7 回いずれも 6 位以内を保ってきた滝ヶ原自衛隊が、念願の初優勝を果たした。

### 復活第9回富士登山駅伝競走大会（昭和59年度）

男もすなる駅伝を女もしてみんとて・・・！？初めて女子チームがトライアル(オープン参加)したが、あえなく最下位。大会は滝ヶ原自衛隊が、前年記録を6分以上短縮して堂々の2連勝を飾った。

### 復活第10回富士登山駅伝競走大会（昭和56年度）

10周年を祝い、連続出場の11チームを表彰。過去最高の80チームが完走。大会も年々隆盛を極めるなか、今年も滝ヶ原自衛隊Aが地元の期待を一身に受け、堂々の3連勝となった。

### 第11回富士登山駅伝競走大会（昭和61年度）

山頂付近の風10m。気温2度。8月には珍しい降雪と悪天候に災いされながらも、滝ヶ原自衛隊Aが4連覇した。今年から初めて高校生チームが参加。橘高校の堂々の15位が光る大会であった。

### 第12回富士登山駅伝競走大会（昭和62年度）

78チームが雲海を走り、滝ヶ原自衛隊Aが5連覇した。紅1点の横浜中快走友会も健闘したが、75位と惨敗。なお沿道の観衆の増加により、交通安全の見地からコースの再検討が提起された。

### 第13回富士登山駅伝競走大会（昭和63年度）

海外からの参加（中国・米国）を得て、この大会も国際化へ第一歩を踏み出すこととなった。大会は大東文化大学が出場5年目にして初優勝を飾った。今年からゴールが市役所となり、距離が伸びたことにもかかわらず、初めて4時間の壁を突破した。

### 第14回富士登山駅伝競走大会（平成元年度）

地域の熱い期待に応え、今年からゴールが駅前となった。しかし、残雪のため大会始まって以来初の除雪作業（2m×2m×300m）まで実施して大会に備えたものの、当日、台風の直撃により5合8勺で折り返さざるを得なかった。結果は平地で圧倒的な強みを待つ大東文化大学の連覇となった。

### 第15回富士登山駅伝競走大会（平成2年度）

夢であった「秩父宮杯」が宮家より御下賜され、陸上競技界での地歩は固まった。中国、韓国、カナダ、アメリカ等海外4ヶ国を含む86チームの激しい争いの中から、滝ヶ原自衛隊が2位以下に10分近い大差をつけ、3年ぶり通算6度目の優勝を飾った。

### 第16回富士登山駅伝競走大会（平成3年度）

交通安全と地域振興の絡みを前向きに捉え、スタート・ゴールは御殿場駅前広場とされた。記録集計も電算化され、市民・ボランティアぐるみの大会運営も軌道に乗った。大会は滝ヶ原自衛隊の2連覇、通算7度目の優勝となった。

### 第17回富士登山駅伝競走大会（平成4年度）

来明には山頂にみぞれが降るなど、例年になく寒さと深い霧の中、95チームが完走。滝ヶ原自衛隊の3連覇となったが、遠来の韓国チームが山頂近くまでトップを走るなど、上位4チームまでが4時間の壁を破るハイレベルな大会であった。

### 第18回富士登山駅伝競走大会（平成5年度）

地元の期待も空しく、交通事情の悪化を理由に、スタート・ゴールが御殿場陸上競技場へと変更された。世界にも例のない山岳駅伝としての評価を定着させるためにも不変のコース設定が課題となった。レースは自衛隊勢の躍進が目立ち、第一空挺団が初優勝した。

他10位以内を8チームが占める結果となった。

### **第 19 回富士登山駅伝競走大会（平成 6 年度）**

快晴、記録的な猛暑の中での大会となり、2チームが途中棄権するなど厳しいレースとなった。大会は第一空挺団の2連覇となったが久々の女性チーム、オールレディーズが堂々と完走し、拍手をあげた。

### **第 20 回富士登山駅伝競走大会（平成 7 年度）**

20年の節目の記念表彰、有力大学の大量出場で、華やかに幕を開けたが、2年続きの猛暑と乾ききった山肌に悩まされ等、極めて過酷な大会であった。レースは山内で大学勢を逆転した第一空挺団が堂々の3連覇を飾った。

### **第 21 回富士登山駅伝競走大会（平成 8 年度）**

90チーム完走のうち、71チームまでが4時間40分をクリアする等、大会のレベルは一段と上がった。しかし、この為に新チームの出場枠が狭まったことも事実である。レースは優勝以下5位迄を自衛隊チームが独占。学生、実業団等の奮起が促せる結果となった。

### **第 22 回富士登山駅伝競走大会（平成 9 年度）**

スタート直後に2チームが脱水症状を起こしリタイヤする等、波乱の幕開けとなった。ここ数年、当地には珍しい真夏日での大会が続いている。有力チームにトラブルが相次ぐ中、コースを知りつくした第一空挺団が悠々と5連覇を達成した。

### **第 23 回富士登山駅伝競走大会（平成 10 年度）**

最多の97チームが完走。しかも、21チームが4時間を切る好成績を残した大会であった。全般をみてこの競技会に寄せるチームの並み並みなら努力と夢を感じた大会でもあった。こうした激しい競争の中で第一空挺団6連覇には惜しめない拍手を贈りたい。

### **第 24 回富士登山駅伝競走大会（平成 11 年度）**

スタートの陸上競技場から山頂までその勇姿を一望にできた富士山。最好天に恵まれた大会は、応援の観衆が競技場から双眼鏡で山の走者を追いながら、笑談する姿などが見られた大変印象深い大会であった。しかも、地元滝ヶ原自衛隊の優勝7年ぶり。また参加97チーム完走、4時間を切ってゴールしたチーム12チームと言う好成績を残し終了した大会でもあった。次年度第25回大会に向けて学生・実業団の大いなる躍進が期待される。

### **第 25 回富士登山駅伝競走大会（平成 12 年度）**

記念すべき25回大会も好天に恵まれ参加95チーム完走。特筆すべきは25回連続出場チーム5チーム。しかも、上位6チームが3時間50分を切る好成績をマークするなど選手巾関係者の本大会に燃やす意欲と情熱が色濃く感じられた記念大会であったといえよう。選手もまた、体力の向上・技術の向上ともにみがきをかけ競技に燃えた一日であった。結果、地元、滝ヶ原自衛隊チームが連覇。有終の美を飾った。

### **第 26 回富士登山駅伝競走大会(平成 13 年度)**

大会も大きな事故もなく無事に終了することができました。役員及び関係者のご努力とご支援のお陰です。感謝の一言につきます。参加チーム95チーム。優勝は滝ヶ原自衛隊チーム。3連覇を成し遂げました。(優勝回数通算11回目)賞賛されるべき走者への優勝メダルは、過酷な山岳競走競技であるだけに鍛錬し、体力・気力共に鍛えられた競技者に与えられるもの。各チームの躍進を期待したい。あわせて競技者全員に惜しめない拍手を贈りたい。本年は残念ながら山頂区で1チームが体調を崩し、参考記録でした。来年度に期待します。

### 第 27 回富士登山駅伝競走大会（平成 14 年度）

96 チーム参加。中途 1 チーム棄権（参考記録）95 チームが完走した。終始トップに立った滝ヶ原自衛隊が 4 年連続優勝をなし遂げた。（通算 12 回）このことは、輝かしい成果として高く評価できる。日々のその努力と熱意に対し賞賛の言葉を贈りたい。大きな事故も無く大会は無事終了。目安としていた 4 時間 40 分以内で完走したチームは 70 チーム。このことは、来年度に向けて大いに期待できるものである。参加チームの健闘を祈りたい。

### 第 28 回富士登山駅伝競走大会（平成 15 年度）

年々増加の傾向にある参加チーム数については、主催者としては嬉しい悲鳴と同時に頭の痛いところである。参加を希望するチームについて、条件さえ許されれば全チームを受け入れてやりたいと思うが、山の室の状況や山内の状況、また、競走競技である以上参加の制限や条件を加えざるを得ない。関係各方面と相談し来年度については検討したい。本年度の参加は 103 チーム。お陰様で関係者の皆様のご支援・ご協力で事故もなく全チーム完走できたことは喜ばしいことである。滝ヶ原自衛隊が 5 年連続優勝。立派である。選手諸君に賞賛と祝福のエールを心から贈りたい。

### 第 29 回富士登山駅伝競走大会（平成 16 年度）

参加選手の心おどらせた第 29 回大会は天候に恵まれ、3 時間 34 分 52 秒という良い成績を残して終了した。優勝した滝ヶ原自衛隊は連続 6 回という他に類をみない成績を残したことは快挙と言わざるを得ない。主催者・応援者と共に賞賛の言葉を贈りたい。

回を重ねるに従い若者の心を燃やす富士登山駅伝競走大会の益々の発展と成功を期待し夢の実現を目指したいと思う。

### 第 30 回富士登山駅伝競走大会（平成 17 年度）

御殿場市市制施行 50 周年記念行事の一環事業として 30 回大会が行われる。これを記念し、各参加チームの実力が十二分に発揮されることを期待し A の部（一般の部）、B の部（自衛隊の部）の二部制を採用する。結果優勝チームは次の通りである。

「総合優勝」（秩父宮賜杯）滝ヶ原自衛隊（3 時間 35 分 43 秒）。「一般の部優勝」（金栗四三杯）山梨学院大学（3 時間 49 分 24 秒）。「自衛隊の部優勝」（御殿場市長杯）滝ヶ原自衛隊（3 時間 35 分 43 秒）

幸い、天候にも恵まれ事故もなく一般の部 74 チーム。自衛隊の部 36 チーム完走できた事は主催者として喜びである。また、滝ヶ原自衛隊の 7 連覇に心から賞賛と今後の活躍に期待したい。

### 第 31 回富士登山駅伝競走大会（平成 18 年度）

A・B の 2 部制の大会として 2 年目。多少の課題はみられたものの関係者の理解と賛同を得て実施できたことは感謝である。

本年度は、特例として、A の部、B の部のスタート時間を 10 分差をつけて実施してみた。チームや競技者の実力を発揮してもらおう意図からである。結果、記録上は問題なかったが参加選手の評価は今一つであった。いずれにせよ、天候にも恵まれ A-86 チーム、B-33 チーム最多のチームが全て完走した。感激である併せて総合優勝した「滝ヶ原自衛隊チーム」の 8 連勝に対し、大きな賞賛の言葉を贈りたい。

### 第 32 回富士登山駅伝競走大会（平成 19 年度）

マラソン日和りにも恵まれ支援団体や協賛団体の厚意も頂いて無事に大会が終了できたことに感謝いたします。

A の部（一般）72 チーム、B の部（自衛隊）30 チーム 合計 102 チームの完走はみごとであった。特筆すべきは 9 年連続優勝をねらった滝ヶ原自衛隊に対していた板妻 34 連隊が永年の懸案としてきた優勝という（3 時間 41 分 47 秒）快挙をなしとげたことであろうか。

これからの参加チーム及び三種の皆様の精進に期待しています。

### 第 33 回富士登山駅伝競走大会（平成 20 年度）

参加チーム数、一般の部 75 チーム、自衛隊の部 30 チーム。大きな事故もなく、無事に全チーム完走。関係者及び選手の皆様の熱意と協力、支援に感謝しています。

参加希望チーム数の増加に伴い、山内宿泊問題を含めて今後に解決すべき課題を残した大会であった。主催者の反省点でもある。

去年度 2 位であった滝ヶ原自衛隊が本年度は奮起して 1 位に上がり、断続ながら 9 連覇を成し遂げたことに拍手を贈りたい。

### 第 34 回富士登山駅伝競走大会（平成 21 年度）

豪雨を伴う悪天候となり、選手・役員・応援者にとって大変難儀した大会であったと思います。危険防止・安全確保のため、7・5 合目を折り返しとする。終了後、今後考慮すべき課題が沢山露呈された。改善策の検証は今後の協議に委ねる。

完走チームは自衛隊の部 30 チーム、一般の部 81 チームで、優勝は[自衛隊の部]滝ヶ原自衛隊、[一般の部]トヨタスポーツマンクラブであった。再度の健闘を祈る。

### 第 35 回富士登山駅伝競走大会（平成 22 年度）

晴天の下、参加チームは例年以上の 118 であった。大会本部としては喜ばしい事であるが、富士登山シーズン山内宿泊許容数はギリギリであり、山内の協力に支えられている。レースを振り返ると、暑さが厳しかったため、体調を崩し自分の走りが出来なかった選手から襷を渡された次の選手が予想外の展開にも動揺せず、繋げてくれたチームメートの為に一秒でも二秒でも前に向かって走る姿は感動した。総合優勝と自衛隊の部の優勝は滝ヶ原自衛隊が、一般の部の優勝はトヨタスポーツマンクラブがともに 3 連勝を飾った。

ここ数年、富士登山者の増加に伴い山内における安全面で一層の配慮が必要である。

### 第 36 回富士登山駅伝競走大会（平成 23 年度）

東日本大震災で開催も危ぶまれましたが、一般から 86 チーム自衛隊から 31 チーム合計 117 チームの参加で開催されました。レース当初は天候に恵まれて一区で倒れる選手もいましたが無事に次の選手に襷が渡りました。突然レース終盤に雨天となってしまう選手・役員を困らせました。その為閉会式を御殿場市体育館内に変更し、秩父宮記念賜杯を総合優勝の滝ヶ原自衛隊に、一般の部優勝がトヨタスポーツマンクラブにそれぞれ優勝カップが渡されました。

### 第 37 回富士登山駅伝競走大会（平成 24 年度）

一般から 91 チーム自衛隊から 33 チーム合計 124 チームの過去最高の参加チームで開催されました。大会前に突然の山室の一つが破損の為営業できず、自衛隊のチームの皆さんに急遽山頂の山室に変更していただきました。でも皆さんのご理解のもと大会が大きな事故もなく 124 チームが無事に完走されました。その結果、一般の部優勝のトヨタスポーツマンクラブが総合 6 位に、総合優勝の滝ヶ原自衛隊に約 7 分まで迫ってきた大会になりました。

### 第 38 回富士登山駅伝競走大会（平成 25 年度）

富士山が世界文化遺産登録となり初めての大会で、昨年と同様 124 チームの参加となりました。好天に恵まれましたが暑さの為、1 区で熱中症で棄権チームがでましたが、123 チーム無事に完走する事ができました。一般の部はトヨタスポーツマンクラブが 6 連覇を達成しました。自衛隊の部では滝ヶ原自衛隊の 6 連覇を国分自衛隊が阻止し初優勝になりました。

### 第 39 回富士登山駅伝競走大会（平成 26 年度）

過去最高の 139 参加チームで、そんな中初出場が 16 チームもあり開催されました。大会当日の朝から太郎坊（新五合目）駐車場に入る車で大渋滞となり役員も中継所に行けない状況でしたが、皆さんのご理解をしていただきスタート時間に間に合いましたが、このような事は初めてでした。大会も大きな事故もなく 139 チームが無事に完走されその結果、一般の部はトヨタスポーツマンクラブが自衛隊の部は国分自衛隊がそれぞれ連覇となった大会でした。一般の部で女性のチームも苦しみながら完走しましたが、是非来年はリベンジしたいと言っていました。

### 第 40 回富士登山駅伝競走大会（平成 27 年度）

御殿場市制施行 60 周年記念事業の一環事業として行われる。観光ハブ都市、スポーツツーリズムを提唱する御殿場市の施策と相俟って、平成 4 年の第 17 回大会以来久しぶりに御殿場駅前をスタートした。心配されていた交通トラブルもなく国道 246 号線を通って、山頂折り返し、

御殿場市陸上競技場ゴールで行われ、猛暑の中、熱中症により 4 チームが無念の破棄となった。結果一般の部はトヨタスポーツマンクラブが 8 連勝の偉業達成、自衛隊の部は 3 年ぶりに滝ヶ原自衛隊が奪還した。

#### **第 41 回富士登山駅伝競走大会（平成 28 年度）**

第 40 回に引き続き御殿場駅前をスタート。無風快晴の絶好のコンディションのもと、130 チームが参加して盛大に実施された。熱中症対策として 1 区に 2 ヶ所の給水所を設置し、要注意箇所に医師を待機させた。それでも 2 チームが無念の棄権となった。地元の GOGO エフエムの協力によりインターネットサイマルラジオ放送で全国に配信した。成績は一般の部トヨタスポーツマンクラブが 9 連覇達成、自衛隊の部は御殿場滝ヶ原自衛隊が地元の期待に応え、連覇を遂げた。

#### **第 42 回富士登山駅伝競走大会（平成 29 年度）**

第 40 回記念大会以降 3 年連続の御殿場駅前スタート。心配された台風 5 号の影響は軽微で富士山内及び太郎坊以下の下界の天候も安定して、予定通り 131 チームが参加して盛大に実施された。近年熱中症で無念の棄権が相次いだが、本年は全チーム完走した。大会の様子は地元 GOGO エフエムを介してインターネットサイマルラジオ放送で全国に配信した。成績ついて総合優勝は御殿場滝ヶ原自衛隊が 3 連覇を遂げた。一般の部トヨタスポーツマンクラブが前人未踏の 10 連覇達成を遂げた。

#### **第 43 回富士登山駅伝競走大会（平成 30 年度）**

平成 30 年 7 月の西日本豪雨により復旧・復興支援の派遣業務に従事するため出場を辞退した自衛隊チーム、また、被災者に寄り添いたいとの思いでギリギリまで熟慮し、出場を辞退した西日本のチームもあった。最終エントリーは一般の部 100 チーム、自衛隊の部 28 チーム、合計 128 チームであった、炎天下のもと 1 区中継所 500m 手前で 1 チームが熱中症により途中棄権。総合優勝は地元御殿場滝ヶ原自衛隊が 4 連覇、一般の部はトヨタスポーツマンクラブが不動の 11 連覇を達成した。